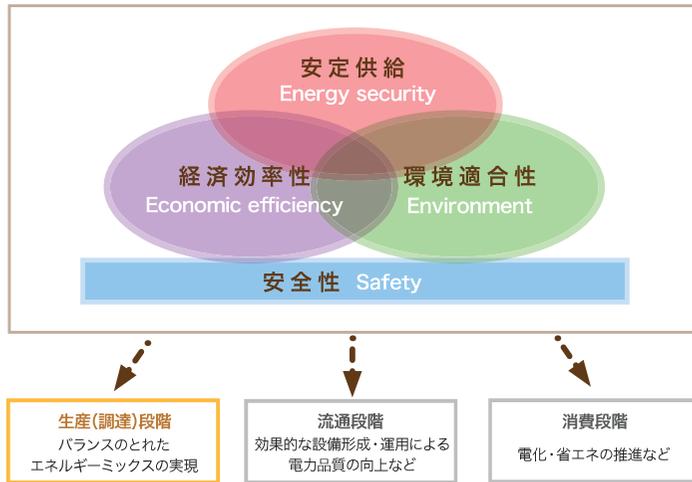


# 「バランスのとれたエネルギーミックス」を目指して ～「S+3E」の再構築～

エネルギーは、私たちの生活や経済活動にとって、欠かすことのできない大切なものです。世界第5位のエネルギー消費大国である日本。しかしエネルギー資源に恵まれず、そのほとんどを海外からの輸入に依存し、エネルギー自給率はわずか16%程度です。資源に乏しい日本にとって、エネルギー政策はまさに国の基幹政策。日本ではこれまで、オイルショックや地球温暖化問題への対応といった社会情勢などを踏まえながら、特定のエネルギーに依存するのではなく、「S+3E」の観点からバランスのとれたエネルギーミックスを実現してきました。

## ■S(Safety)+3E(Energy security)(Economic efficiency)(Environment)



しかしながら、東日本大震災以降は再稼働した原子力発電所は少なく、火力発電へ過度な依存が続く中、2022年2月のロシアによるウクライナ侵略は、世界のエネルギー情勢を一変させました。日本においては、エネルギーミックスのバランスは失われ、3E(安定供給・経済効率性・環境適合性)のすべての面においてさまざまな問題が生じています。

こうした状況の中、2025年2月に「第7次エネルギー基本計画」が閣議決定されました。計画では、DXやGXの進展による電力需要増加が見込まれる中、エネルギー安全保障に寄与し、脱炭素効果の高い電源である再生可能エネルギーと原子力をともに最大限活用することが必要不可欠とされるとともに、特に原子力についてはこれまでの「依存度低減」という文言の削除のほか、廃炉を決定した原子力発電所を有する事業者の原子力発電所のサイト内での次世代革新炉への建て替えについても明記されました。

また、GX実現に向けた長期的な方向性を示す「GX2040ビジョン」や2050年カーボンニュートラル実現のため、温室効果ガスの排出削減目標を2035年度に2013年度比60%減、2040年度に同73%減とする「地球温暖化対策計画」と一体的に活用されることで、エネルギー安定供給、経済成長、脱炭素の同時実現を目指す取り組みの加速が求められています。

電気事業者としても、「S+3E」の観点からバランスのとれたエネルギーミックスの達成と同時に2050年カーボンニュートラルの実現に向け、再生可能エネルギーや原子力発電の最大限の活用、火力発電の脱炭素化とともに、需要側においてもエネルギーを効率的に利用できる電化の推進に取り組んでまいります。

# CONSENSUS

## コンセンサス 目次

### 原子力発電の安全対策

- 原子力発電所の安全規制はどうなっているの? ..... 3
- 原子力発電所はどんな安全対策を行っているの? ..... 5
- これまでに原子力発電所ではどんな事故が起こったの? ..... 9
- 東日本大震災後の東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の状況 ..... 11

### 原子力発電の必要性

- 日本はなぜ原子力発電を使うの? ..... 13
- 海外では原子力発電にどう取り組んでいるの? ..... 17

### 原子燃料サイクル

- 原子力発電所で使い終わった燃料はどうなるの? ..... 19
- 高レベル放射性廃棄物はどう処分するの? ..... 21

### 廃止措置

- 原子力発電所は運転を終了したらどうするの? ..... 23

### 原子力発電・放射線の基礎

- 原子力発電のしくみはどうなっているの? ..... 25
- 原子力発電所や再処理工場からは放射線や放射性物質が出ているの? ..... 27
- 放射線や放射性物質はどんな所にあるの? ..... 29